

医療従事者の需給に関する検討会 第8回 看護職員需給分科会	資料1
平成31年4月25日	

介護施設における看護職員確保の現状

一介護老人保健施設を中心に一

公益社団法人全国老人保健施設協会

副会長 平川 博之

【平成 29 年介護サービス施設・事業所調査】

- (1) 全国の老人保健施設（老健施設）の看護職員総数：39,483 人（看護師：21,154、准看護師：18,329）。
- (2) 老健施設 1 施設当たりの常勤換算従事者数：総数 52.1 人　うち看護職員 9.9 人（看護師：5.3、准看護師：4.6）

【平成 29 年度介護労働実態調査（介護労働安定センター）】

- (1) 老健施設に勤務する看護職員の回答数：135
男性：17 人、女性：115 人、　平均年齢：47.1 才、
看護職としての経験平均年数：19.6 年、現在の老健施設での勤務平均年数：10.6 年

- (2) 今後の勤務先に関する希望をみると今の仕事を続けたい人が多い。

あなたの勤務先に関する希望についてお伺いします。（○は 1 つ）		
1	今の勤務先で働き続けたい	56.90%
2	介護関係の別の勤務先で働きたい	7.80%
3	介護以外の福祉関係の別の勤務先で働きたい	1.90%
4	医療関係の別の勤務先で働きたい	2.40%
5	介護・医療・福祉関係以外の別の勤務先で働きたい	4.10%
6	わからない	23.20%
7	働きたくない	2.40%

【全老健での取り組み】

老健施設は多職種協働を基本とした施設

全老健では「介護老人保健施設の中で看護職員が果たすべき役割等について理解を深めること」を目的として、施設に勤務する看護職員を対象に看護職員研修会を平成 19 年度より実施。

年度	日時	都道府県	会場	参加者
平成 19 年度 2007 年度	平成 20 年 2 月 29 日(金)～3 月 1 日(土)	東京都	第一ホテル両国	169 名
平成 20 年度 2008 年度	平成 20 年 12 月 11 日(木)～12 日(金)	兵庫県	神戸ベイシェラトン&タワーズ	123 名
平成 21 年度 2009 年度	平成 21 年 12 月 21 日(月)～22 日(火)	東京都	TOC 有明	161 名
平成 22 年度 2010 年度	平成 23 年 2 月 21 日(月)～22 日(火)	大阪府	ホテル大阪ベイトワー	135 名
平成 23 年度 2011 年度	平成 24 年 2 月 23 日(木)～24 日(金)	東京都	ホテル JAL シティ田町東京	121 名
平成 24 年度 2012 年度	平成 24 年 9 月 3 日(月)～4 日(火)	東京都	TOC 有明	98 名
平成 25 年度 2013 年度	平成 25 年 9 月 25 日(水)～26 日(木)	京都府	メルパルク京都	155 名
平成 26 年度 2014 年度	平成 26 年 7 月 7 日(月)～8 日(火)	東京都	ホテル JAL シティ田町東京	174 名
平成 27 年度 2015 年度	平成 27 年 7 月 1 日(水)～2 日(木)	大阪府	大阪国際交流センター	153 名
平成 28 年度 2016 年度	平成 28 年 7 月 19 日(火)～20 日(金)	東京都	品川フロントビル	164 名
平成 29 年度 2017 年度	平成 29 年 6 月 27 日(火)～28 日(水)	大阪府	大阪国際交流センター	137 名
平成 30 年度 2018 年度	平成 31 年 2 月 11 日(月)～2 月 12 日(火)	東京都	TFT ビル	116 名
累計				1706 名

老健施設看護職のまとめ

- ・介護施設の入所者については、医療ニーズを併せ持つ中重度の要介護者が増加している。
- ・看護職には、医療的な判断を行い、必要な際には医療的ケアの提供、他の医療機関との連携を担う役割が求められている。
- ・看護職の役割として重要な業務としては「健康管理・健康状態のチェック」「急変時の対応」「服薬介助・服薬管理」「診療の補助・日常的な医療処置」「感染管理」が上位にあった。
- ・重度化に対しての看護業務・体制の変化については変化があったが 42.6%、なかったが 55.9%であった。変化の内容としては、看護職の役割の変更、看護職の増員、看護職の勤務時間を変更したなどであった。
- ・本来の看護業務に加えて、施設の管理業務を任されていることが多い。
- ・年齢階級別の正規看護職員数をみると、50 歳から 59 歳が最も多く、次いで 40 から 49 歳であった。60 歳以上が 1 割を占めた。
- ・勤務年数別の正規看護職員数をみると 10 年以上勤務が最も多かった。
- ・正規看護職員の充足状況は、充足しているが 26.2%、充足していない、やや充足していないの合計が 43.6%であった。特養に比較して充足率が顕著に低かった。
- ・入職の動機は「介護施設での看護に興味があった」次いで「通勤が便利」「高齢者が好き」「家庭と両立しやすい」の順であった。
- ・離職率は 16.4%で特養の 21.5%に比較し低かった。しかし新規採用者の離職率をみると 38.3%で特養の 39.8%と差異がなかった。
- ・定着・確保の取り組みとしては「医療・介護事故対策の整備」「労働安全衛生の整備」「業務内容と役割の明確化」等であった。取り組みが少なかったのは「柔軟な勤務形態導入」「メンタルヘルスケア体制の整備」であった。